北前船主の館 右近家ご視察

7月4日、第43回献血運動推進全国大会がサンドーム福井で開かれ、日本赤十字社名誉副総裁の皇太子殿下は、この大会にご臨席のため、二日間の日程で、3日午後に来県されました。

国内外の水運の研究を深められている皇太子さまは、南越前町の「北前船主の館右近家」をご視察に訪れました。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

お召車は、7月3日午後3時頃、国道8号を通って南越前町に入り、皇太子さまは、具谷バス停前の沿道で待ち構えていた住民にお手を振られました。桜橋総合運動公園めだかの学校前、赤萩バス停前、河野坂下商店前と住民の歓迎を受け、午後3時25分、北前船主の館右近家にご到着。日の丸の小旗を振っての沿道の歓待に、皇太子さまは笑顔で応えられました。

右近家玄関に、皇太子さまがご到着されると、増澤町長が「本日はようこそおいでくださいました。」とあいさつ。右近家当主右近順一さんや議長、副町長を紹介後、右近家内を先導、長屋門や右近家の船旗紋などの質問を受けました。

▲右近家当主右近順一さんとお話しされる皇太子さま

3日午後は、降りしきっていた雨も上がり、河野地区は歓迎ムードに包まれました。町内のお迎え場所には、来町される皇太子さまを歓迎しようと、早くから住民が集まり、いまかいまかとお待ちしました。

右近家前駐車場には、午後3時には河野小、中学校の全生徒ら150人も揃い、約700人がお出迎えしました。

皇太子さまご来町

▲船絵馬 仁恵（じんえい）丸 －町指定文化財－

▲河野北前船研究会と懇談される皇太子さま

▲八幡丸の模型やのぼりをご覧になる皇太子さま（写真：県提供）

北前船 八幡丸模型、船絵馬をご鑑賞

右近家は、江戸中期から明治中期に北海道と大阪を結んだ北前船船主の邸宅。県立歴史博物館の山形裕之学芸員の案内で、八幡丸の模型をはじめ、北前船交易に関する古文書や相場帳など、約二百点の展示品をご覧になりました。

続いて、「河野北前船研究会」の右近了一会長、会員の下中賢さん、玉村ひろ美さんらと懇談。右近家の菩提寺・金相寺に伝わる「青玉」を手に取り、アイヌ民族を介し中国から運びこまれたとの由来などを話されました。

皇太子さまをお迎えして

福井県立歴史博物館　山形　裕之 学芸員
（河野北前船研究会員）

右近家は、建物の公開と同家の廻船経営に関わる資料の展示を目的に平成2年5月に開館、その時から携わっています。

今回のご視察で、皇太子さまは、商品価格の地域差を利用した「買積み商い」や、河野・今泉浦と府中（越前市）などを結ぶ運送業者間の約束事を記した15世紀の文書「馬借中之定之事」にご興味を示されました。また、敦賀に向かうお車の中では、中村三郎右衛門（三之丞）家のこともお話しされたと聞いています。このご訪問を機に、日本海海運の歴史的に貴重な船主の館のある河野地区に、多くの人が訪れてほしいものです。